

8月15日(火)

互いを受け入れる

聖書朗読 ローマ 15:7~13

それゆえ、私は異邦人の中で、あなたをほめたたえ、あなたの御名をほめ歌おう。

ローマ 15:9

私は、”ベン・ハー“という映画のリメイク版を観ました。この映画の中で、異母兄弟の2人が憎しみ合い、仇敵となっていく様子が描かれています。ユダは、裕福なユダヤ貴族の家に生まれました。メッサラは、異邦人の養子でユダの異母兄弟でした。この映画のクライマックスは、この2人の兄弟、ユダヤ人と異邦人が戦車競技で殺し合うシーンです。ユダは遂にキリストの影響を受けて、メッサラを受け入れます。

使徒パウロは、異邦人のための伝道者として神に召されました。“互いを受け入れる”ことは、パウロにとって簡単なことではありませんでした。パウロはユダヤ人の家に生まれ、ユダヤ人として育てられ、ユダヤ人として教育を受けました。パウロにとってユダヤの信仰の異端者であったクリスチャンを、彼は迫害しました。彼は、死刑の判決を受けるクリスチャンを非難しました。

パウロが異邦人への伝道を始めた時、異邦人を受け入れるパウロにユダヤ人のクリスチャン達は驚きました。イエスによって変えられたパウロの心は、私達に希望を与えてくれます。

讚美歌 II172

祈り 親愛なるお父様。私達は、異邦人の中であなたをほめたたえます。ユダヤ人の中であなたをほめたたえます。全ての国、人種、言語にあつてあなたをほめたたえます。あなたは、私達をあなたの御国に集められ、互いを受け入れることを教えられました。どうか私達に希望を与えてくださいますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル
ケン・スコット

8月16日(水)

神が現れるとき

聖書朗読 Iコリント 1:27~29

そこでこのふたりも、残りの人たちのところへ行ってこれを知らせたが、彼らはふたりの話を信じなかった。

マルコ 16:13

私の職場のビルの中にあるコーヒーショップに、ある特定のグループが毎朝集まります。彼らは周りの人たちに聞こえる程の声で、政治についてよく話します。皮肉なことに、そのグループに説教者も加わることもあります。そのグループの複数の人たちは、敬虔なクリスチャンです。

彼らは、自分の意見をはっきりと話し、政治的な話もします。彼らは、人の権利について、ビジネス、お金、人種などについて話します。彼らの会話の中で興味深いのは、それらの話題に神様がどう思われるかが全く語られないことです。私にとって、それは非常に興味深いことです。

彼らがどの党の支持者であるかは関係ありません。どちらの党の支持者であっても、あまり関係がないかもしれません。いずれにせよ、神様は、その会話に招かれていないように思えます。パウロは言いました。“神はこの世の愚かな者を選び・・・。”しかし、このカフェに集まるこのグループは、“神に政治の何が分かるのか。”と言っているようにも思えてならないのです。

昔流行った“イエスならどうするだろうか(What Would Jesu Do?)”のプレスレットを思い出します。神の立場で者を言うことは危険ですが、自分の選択や会話が神の御心を表しているか、それとも、醜い人間性を表しているか、もう一度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。私達も自分自身を振り返ってみませんか。

讚美歌 533

祈り 親愛なる神様。あなたは賢く強いお方です。私達は、取るに足らない弱いものです。政治的なものに答えを求めのではなく、あなたを信頼し、日々の生活の中であなたをほめたたえることを求められるよう、助けてください。全てのことをにおいて、謙遜であることができますように。イエスのお名前によって、お祈りいたします。アーメン。

カリフォルニア州 マースト
ブルース・ローグ

8月17日(木)

干し草からの学び

聖書朗読 Iコリント 3:1~9

私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。

Iコリント 3:6

育たない! 3週間の後に思いました。私は、説明書に書かれている通りに、干し草の種をまいて、水をやりました。私は種をまいた場所に、芽が出ていないか期待をもって毎日見に行きました。そこには、土しかありませんでした。

私は、十日間の旅行に出かける前に、水やりにお金をかけるかどうか迷った末に、スプリンクラーをセットして留守の間水をかけることにしました。私は、あまり期待してはいませんでした。旅行から帰った私は、美しい緑の芽が出て育っていることに驚き、大喜びしました。失敗したと思いついていましたが、失敗ではなかったのです。

この経験は、私がコントロールできることと、できないことを教えてくれました。私は、植えて水をやることはできましたが、芽が出るタイミングと芽の成長は、私にはどうすることもできなかったのです。

これは、私達の霊的な人生においても同じです。私は祈り、伝道し、分かち合い、教え、神の御言葉を他の人々と学びます。多くの場合、進展は見られません。私は、自分は失敗したのだと結論付けます。しかし、ここで干し草を育てるにあたって学んだことを活かすことができます。種と同じように、私にはみることができなくても、神は働いてくださっているのです。パウロは、誰が成長させるのか、明らかにしています。それは、神です。

あなたが、霊的な成長をみることが出来ないと落胆しているなら、あきらめないでください! 植え続け、水をやり続けてください。そして、変化は神に任せてください。

讃美歌 504

祈り 親愛なる主よ。あなたが、あなたの方法とタイミングで働かれることを、私達は知っています。人々の心に種をまき続ける信仰を与えてくださいますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

オクラホマ州 エドモンド
サリー・ジェイン・シャンク

8月18日(金)

力の塔

聖書朗読 Iコリント 3:10~15

というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストのことです。

Iコリント 3:11

私達の教会は、新しい建物がもうすぐ完成することを楽しみにしています。最近、教会員の全員が、タイルを敷く前のコンクリートの床にお気に入りの聖句を書くように頼まれました。教会員は、若者も年配者も、床に膝をついて聖書を開き、色々な色のマーカーでお気に入りの聖句を書きました。

私達は、教会の土台が神の御言葉であることを望みます! ヒューストンの家の土台の多くは、多孔性の土と動く地面のせいで、建てて数年でひびが入ってしまいます。建物は、鋼で補強された厚いコンクリートの土台の上に建てられなければ、ひびが入り、短い期間で倒壊してしまいます。神の御言葉以外のものに従う人は、そのうち崩れて倒れてしまう家を砂の上に建てた愚かな人のようです。

信仰者が神の御言葉の上に信仰を築く時、その信仰者は御言葉を学び、暗記し、思いを巡らせて土台を強く保ちます。パウロは、イエスは“石”、教会が築き上げられた力の塔だと言っています。イエスのほかに、不朽の教会の土台はありません。

讃美歌 270

祈り 親愛なる主よ。あなたの御言葉を学ぶ中で、私達に知恵と知識を与えてください。あなたが、あなたの御言葉とあなたの人々を通して私達と共にいてくださっていることを知っています。見ることができる目を与えてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ヒューストン
ジェイン・ポー・マシー

8月19日(土)

キリストの香り

聖書朗読 IIコリント 2:14~17

キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。

エペソ 5:2

この匂いは何? 皆さんもすぐ想像できると思います。感謝祭の朝、セロリやセージを煮込む香り。泊りでキャンプに行った翌朝、テントに漂ってくるベーコンの匂い。夜、犬を外に連れ出した時に流れてくるスカンクの臭い。否定しようのない、強烈な臭いを想像してみてください。パウロは、クリスチャンは“至る所でキリストを知る知識のかおりを放つ”ものであると言っています。

救われた者にとって、私達は“いのちから出ていのちに至らせるかおり”ですが、滅びゆく者にとっては、“死から出て死に至らせるかおり”なのです。では、私達は、周りの人たちにどんなかおりを放っているのでしょうか? 神は私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加えられ、私達にキリストの福音を伝えていく任務を与えられます。それを聞いて従う人が感じる私達の匂いと、それを拒否する人が感じる私達の匂いは違います。

私達が分かち合うかおりは、私達のものではなく、キリストのかおりです。それは、カルバリの十字架で私達のためにくださった犠牲のかおりです。

讃美歌 II185

祈り 親愛なる主よ。あなたのひとり子の犠牲に感謝いたします。どうか私達がキリストのかおりをこの世に漂わせ、至る所でキリストを知る知識のかおりを放つものであることができるよう助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル
リチャード・トンプソン

8月20日(日)

文句を言わない

聖書朗読 IIコリント 4:16~18

すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中であって傷のない神の子どもとなり。

ピリピ 2:14~15

人生はうまくいっているのに、全ての事について文句を言う人がいます。私もそのうちの一人でした。不平不満を言って、悪い所ばかりに気をかけていると、肉体的も、魂も、霊的にも病んでしまいます。私がある一人だったころ、どんな悲惨な状況にあっても、自分置かれた状況について不平不満を言うことを主は喜ばれないことを学びました。

主は、私達が喜びにある時も、失望にある時も、必ず私達と共にいてくださいます。主は、私たちの益のために働かれ(ローマ8:28)、私たちが主により頼む時、主は私達の悲しみをも、他の誰かを祝福するために用いられます。

私達のお手本は、いつでもキリストです。それは、思いを新たに、祝福を毎日数えることを習慣とし、すでに与えられたものに感謝することです。それが秘訣です。文句を言うことをやめて、与えられた祝福を神に感謝しましょう。

讃美歌 515

祈り 天のお父様。私の置かれた状況を超えてものを見ることができるよう助けてください。いつもあなたに心を留めていることができますように。キリスト様のお名前によって。アーメン。

コロラド州 ルエブロ
ロン・グロス